

広報

のあさひ

No.280
'80

昭和42年5月21日第3種郵便物認可

百周年を迎えた

杉山分校

明治十三年三月に創設いらいろ数多くの卒業生を送り
輝かしい歴史と伝統を築き上ってきた杉山分校。いま
一名の児童と一名の先生が一体となって、日々楽しく
学習にはげんでいます。百年にわたって教育の灯をも
やし続けてきた分校では、近く地区民たちの手で記念
事業が盛大に行われることになっています。

【写真・一年生の浅岡美紀ちゃんと斎藤チエ先生】

今月の内容

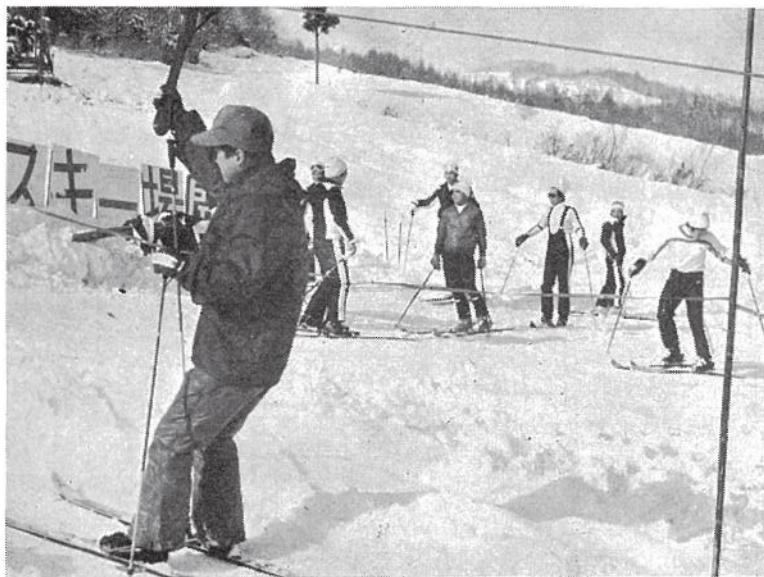
雪国の自然を生きそう 2

●カメラ・ルポ 西小新校舎が落成 6

●みんなの教育・婦人活動二年のあゆみ 8

●町民の広場 10





例年ない豪雪にみまわれたこの冬も、ようやく終わりを告げようとしています。雪は私たちの暮らしに限りない影響をもたらしますが、この雪をどう利用し克服するか、住みよい町づくりにとって永久的な課題といえます。今月はオープン二年目を迎えた町民スキー場の現状と課題について、みんなで考えてみましょう。

雪三五の自然が生かさう 二年目を迎えた町民スキー場

望まれる

自然の活用

町民スキー場の開設について
は、町づくりの柱である総合開発基本計画にあるように、町民の体力づくりの場や冬期スポーツの振興といった目的とともに、部落づくりという意味あいも込められています。

具体的な整備構想がつくられたのは三年前のことですが、スキーフィールド設置に必要な諸条件を備

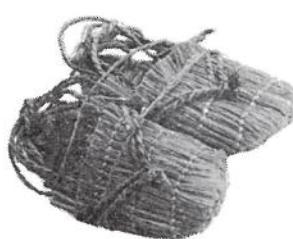
えている白倉の場合、とくに過疎化が著しくすんでいるとい

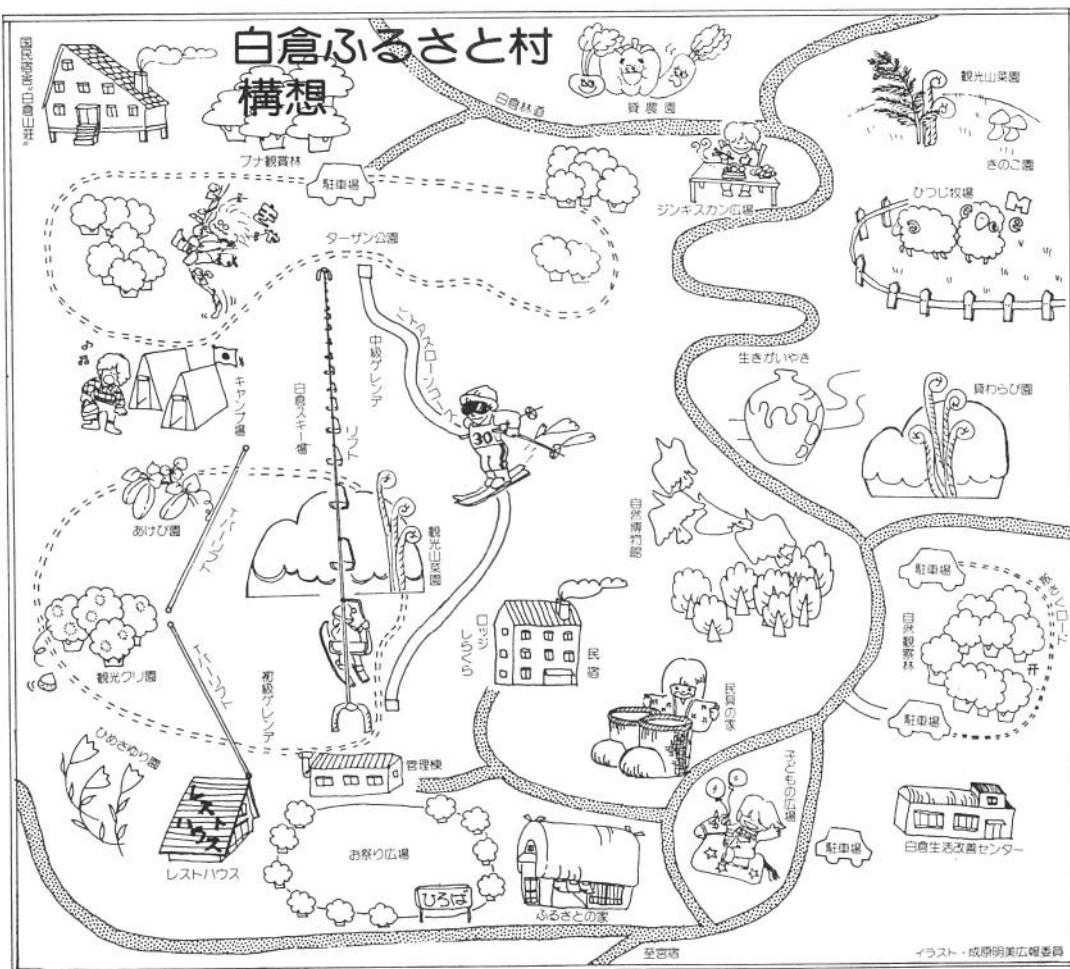
はかなりのウェートを占めていますが、今後の部落づくりにと

た。昭和四十年の人口が二六六人で四六世帯もあった白倉区は十一年後には一四三人、四〇世帯と人口で四六世帯も減少、現在では戸数も三十三戸に激減しています。また耕地の利用についても、一戸当たり二・一畝と町平均の二倍近い規模をもちながら、傾斜地・開煙等が多く、利用度も著しく低いのが現状です。最近ではワラビやウドなど山菜の

栽培がさかんになり、この収入はかなりのウェートを占めていますが、今後の部落づくりにとって、後継者の確保や生活基盤の整備、自然の活用など欠かせない要素となっています。とくに白倉のもつ豊かな自然環境を生かした開発に大きな期待が寄せられていたことは事実です。

また、こうした背景のほかに白倉はスキー場をつくるために必要な地形や雪質、量といった自然条件に恵まれていてこと、地元の用地の協力態勢があるこ





と、スキー愛好会の結成により技術指導の体制が整っていることなども実現へのはずみとなっています。

管理運営は
区民の手で

全体の事業計画を見てみますと、ゲレンデの整備（八ヶ）、スキーリフト（三八〇基二基）、ロープ塔（一六〇基二基）の設置、管理棟の建設、压雪車一台のほか、駐車場整備（三、〇〇〇平方メートル）、食堂一棟（三七〇平方メートル）、観光山菜園の造成

付帯施設として簡易水道、農道の整備も含まれています。このうち、すでに整備されたものとしては、ゲレンデ造成及びTバーリフトの設置（一八〇基と一五〇基）、ブレハブ式管理棟の建設（一二四平方メートル）、駐車場造成（一、五〇〇平方メートル）などがあり、もっとも大きな課題であった簡易水道の布設も昨年実現しています。

また施設の管理運営については、元気区民で組織する管理組合に委託しており、区民の就業機会の増にも役立っています。

スキーコースの利用状況について

布設も昨年実現しています。
また施設の管理運営についても、
は、地元区民で組織する管理組合に
台に委託しており、区民の就業機会の
機会の増にも役立っています。
スキー場の利用状況について

は別表のとおりですが、昨シーズンの利用者は子ども六七五人、大人九七七人の一、六五一人、今シーズンが二月までで子ども七四二人、大人一、一二五人となっています。これはリフト利用者のみの数字ですので、このほかリフトを利用しない人数も含めると二千人をこす人が訪れていることになります。これは他の町営スキーリゾートと比べて決して多い数字とはいませんが、町民が身近かに楽しめる場として一応の成果は見られたといえどでしょう。しかし、今後のあり方を考えた場合、駐車場やゲ

*自倉スキーチャンスリフト利用状況

单位:人

	1月	2月	3月	計	日平均
54年	こども	169	447	59	675
	大人	313	491	173	977
55年	こども	340	402	—	(742)
	大人	671	454	—	(1,125)

レンデの問題、庄雪車やリフト増設、宿泊施設の整備、夏期間の利用をどうするかなどさまざまな課題も出されています。

朝日連峰の観光開発と結びつけた白倉林道や国民宿舎の構想と合わせて、今後の望ましいやり方についてさらに話合いをすめていく必要がありそうです。

宿泊施設

を ゼ ひ

そこではここで地元の声や利用者の意見、今後に望むものなどを伺つてみたいと思います。

はじめにスキー場管理組合の渋谷キヨエさん(43歳・写真)に伺つてみました。

——スキー場に対する区民のうけとめ方はどうでしようか。

渋谷「一つは何といつても部落に活動が出てきたことです。今まで長年ここで暮らしてきてこんなに明るい冬をすごしたことはありませんでした。ふだん物音ひとつしない年よりと女だけの部落が、昨年からはどんどん人が入りスキーや楽しんでいる姿をみると本当につくつてよかったです。



町 民 の ホーリムゲレンデ

——売店の経営をしていて感じることは?

渋谷「利用者をみると、山形や寒河江などかなり町外の人が増えていることと、家族づれが増えたことです。

売店の方ももっと休けい所を広くして、おにぎりやひつぱりうどん、あまざけなど、ここでしか出せないものを工夫すべきだと考へています。それとやはり泊つてすべるよう、宿泊施設を何とかしてほしいといった声もあります。今月末に都会の子どもたちを迎えて自然教室を開かれますが、民宿もぜひ考えたいと思いますね。」



感など何ともいえません。つい家にこもりがちになる雪国で、こんなに自由に楽しめるスポーツはほかにないと思いますね。

また、白倉は初中級コースにふさわしく、幼児向きのソリコースもあって他のゲレンデに見られない家族的な雰囲気をもつています。街から十二キロと近いことも魅力ですし、省エネ時代にわざわざ遠くのゲレンデを選ぶ必要はないと思うんです。

——ゲレンデ整備など今後の課題についてはどうでしょうか。

堀「やはり二年目ともなると休日などはリフト待ちで列ができるほどにぎわっていますが、将来はリフトを増設して、中級クラスのゲレンデをぜひ整備してほしいと感じます。あとは今年のようない大雪になると雪ふみだけで半日もかかる現状ですでの、庄雪車はぜひ設置してほしいですね。クラブとして今年はスボーツ少年団を中止ならず、思うように技術の向上もはかれない状態でした。今ではクラブ員も三十名に増え、米沢まで出かけて練習しなければならないようになります。」

堀「やはり二年目ともなると休日などはリフト待ちで列ができるほどにぎわっていますが、将

来年からは一般的なスキー教室も開き、より多くの人にスキーを楽しんでもらえるような体制づくりを考えています。」

学校教育で スキーの指導を

スキーの指導を

いま堀さんからお話をあつたように、わが町にも昨年スキースポーツ少年団が誕生し、冬期の体力づくりとスキー技術の向上に励んでいますが、父兄を代表して常盤の阿部健一さん(39歳・写真)にご意見を伺つてみました。

——毎週交代で子どもたちを送迎しているので、子供たちを送迎しているそ

スキー教室で 技術の向上を



——ゲレンデ整備など今後の課題についてはどうでしょうか。



お話し下さい。

阿部「朝日町のような豪雪地に住みながら、スキーもできないということで恥かしい思いをしていたんですが、スポーツ少年団ができる子どもといつしょにやっているうちに、私も病みつきになりました。毎週日曜日、各班ごとに交代で父兄が子どもたちを白倉まで送迎して、スキークラブのメンバーから指導してもらっています。今では日曜日には歌をうたいながら起きるようになつたと喜んでいる父兄もいます。

今後の課題としては、一般の人も含めて、基礎をガツチリ指

導してもらえる体制づくりだと思います。最近ケガ人もかなり出ているようですが、日頃の体力づくりと基礎ができるいないままにいきなりカッコ良く滑ろうとすることが多いからだとうんです。それと小学校から中学・高校を通して、カリキュラムの中でスキーを教えるような方法をぜひとり入れてほしいと思思いますね。」

バッヂテスト で一級合格!

最後に、スキースポーツ少年団で活躍している本町の滝川功

次くん(11歳・写真)にお話を伺つてみました。
滝川「スキー場が出る前は宮小のゲレンデで滑っていましたがきちんとやりはじめたのは去年少年団に入つてからです。」

——スキーは楽しいですか?

滝川「楽しい! 前は冬などはテレビみてる方が多かつたけど、今は



前、スキークラブのお兄さんた

ちとバッヂテストをうけに行つたんですが、二級に合格したんです。思つてもみなかつたので本当に嬉しくて。」
——将来の夢を話して下さい。
滝川「今度はもっとたくさんの方達をさそつていしょにやりたい。将来は指導者の資格をとつて、みんなに教えられればいいなと思つてます。あとはアルバスの山で滑ることかな。」

これまで六人の方に町民スキーフェスティバルに対し意見や感想を伺いましたが、それぞれ冬のスポーツ

ちとバッヂテストをうけに行つたんですが、二級に合格したんです。思つてもみなかつたので本当に嬉しくて。」
——将来の夢を話して下さい。
滝川「今度はもっとたくさんの方達をさそつていしょにやりたい。将来は指導者の資格をとつて、みんなに教えられればいいなと思つてます。あとはアルバスの山で滑ることかな。」

これまで六人の方に町民スキーフェスティバルに対し意見や感想を伺いましたが、それぞれ冬のスポーツ

自然豊かな心のふるさと

日本ナチュラリスト協会 吉田 正人

です。

今年のようすに毎日大雪のニュースが聞かれると、東京に住む者はスキーに行くことなどを考

えてウキウキしてきます。この雪も雪国に住む人にとっては雪おろしや交通などを考えれば頭の痛いものでしょう。日本の北半分は雪に覆われる地域だといふに、都會に住む人の雪国に対する理解はこれほど低

いのが現状

今年のようすに毎日大雪のニュースが聞かれると、東京に住む者はスキーに行くことなどを考えてウキウキしてきます。この雪も雪国に住む人にとっては雪おろしや交通などを考えれば頭の痛いものでしょう。日本の北半分は雪に覆われる地域だといふに、都會に住む人の雪国に対する理解はこれほど低



みんなの力で大成功へ!!

第29回山形県青年大会が、

朝日町を会場に開かれることになりました。町民みんなの力で、大会を大成功させましょう。

◆とき 9月6日~8日
◆出場選手 全県下より三、〇〇〇人

◆競技種目

陸上、バレーボール、バスケットボール、卓球、柔道、剣道、相撲、ソフトボール、演劇、音楽ほか

一つであるスキーを楽しみながら厳しい豪雪のりきつているようすが伺えます。

また、リフトの増設やゲレンデの整備、宿泊施設、駐車場の整備など今後のあり方に対する要望も出されましたが、この財源をどうするかといった課題もあります。将来の住みよい町づくりにとって、町民スキー場の果たす役割は大きなものがありますが、さらに話し合いを積み重ね、ふるさと村構想の実現めざしてとりくんでいきたいものです。

できだぞ！ ばくらの新校舎

西五百川小が希望の船出

さくらの花 句う日は

河瀬がひびくよ 丘の上：

希望に満ちた子どもたちの歌声が、新しい学び舎にひびきわたります。一年がかりで工事がすすめられてきた西五百川小学校（佐竹瑞穂校長、生徒数一六八名）が完成。さる二月十五日、喜びあふれるなか落成式が行われました。

八十年の歴史をもつ西小。いま新しい校舎で、新しい息吹きにもえて明るく勉強に励んでいます。

「生まれかわった校舎」
四年 阿部 浩子

広いなあ
でつかいなあ

りっぽだなあ
やつと できたぞー
一年ほどかって
やつとできたんだなあ

地上から空へ
ぐんと ぐんと高く

教室の中には
クリーンヒーターが二つ

黒板は前に右に
うしろにはかわいい水飲場

サッシを開けると
どこまでも続く ベランダ
ろう下にでると

一階、二階、三階
どこへ行つても

非常ボタンの赤ランプ

水洗トイレ 配ぜん室もある

給食が待つて
やつぱり いいなあ
新しい校舎 新しい学校

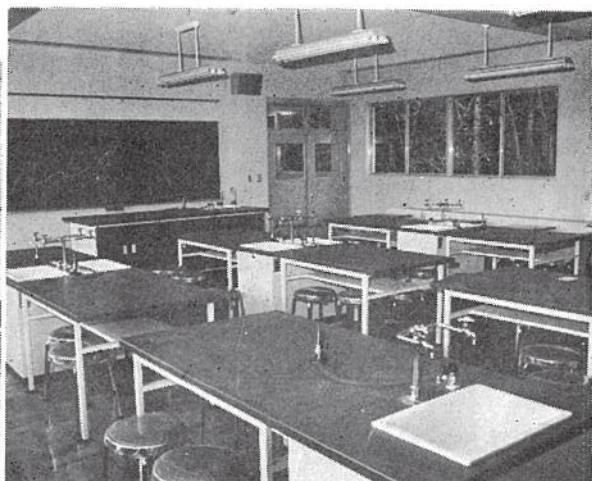
(西小通信より)



板に電気ヒーターをとりつけるなど雪国にふさわし



喜びの落成式、体育馆は地区民も使えるよう改造された



設備の整った理科室、給食は衛生と効率を考えたドライシステム方式をとり入れダムウエーターが3階までごちそうを運ぶ

学校るぽ

熱こもる寒げいこ

■送橋小剣道スポーツ少年団

送橋小（長谷川巖校長・児童34人）の昇降口を入れると、ズラリと並んだカップの列が目に入る。西村山剣道大会で昭和41年からのべ9回優勝したのをはじめ、県民スポーツ大会など各種大会でも大活躍している。送橋小剣道スポーツ少年団——昭和37年誕生いろいろの輝かしい伝統と歴史の足あとである。

団員は3年生以上23人。夏休みの合宿、

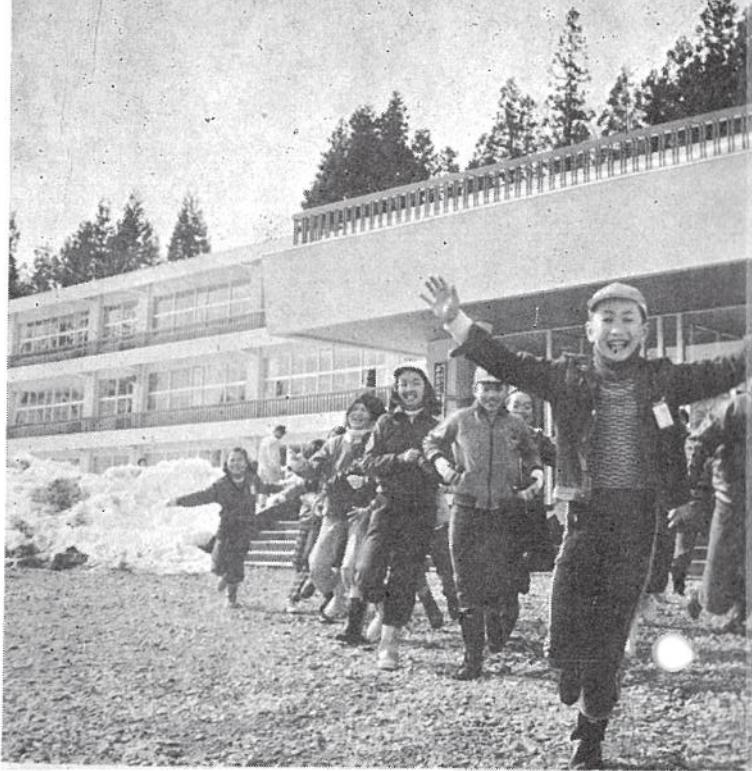


冬休みの寒げいこをはじめ、毎週2回の夜剣、日曜日早朝の練習とハードトレーニングをこなしている。指導も教員の渡辺良先生や清野忠市（講師長）さんら地元の先輩たちがガッチャリ支えているほか、送橋小剣道部の創設者、清野寿郎先生も指導に当らされている。

ことしの寒げいこは2月中旬。岡崎源吉父母の会会長が「剣道の礼の精神を忘れずに寒さに立ち向い、強い体と根性を養って下さい」とあいさつ。きびしい寒さの中で鋭いかけ声と共に打ちあう竹刀の音が学校中に響きわたる。

最終日には力モチをついて激励するなど団員と地区民、指導陣が一体となった見事な団結ぶりが目についた。

<清野正男広報委員>



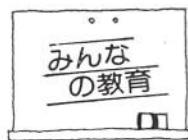
待ちに待った新校舎の完成に、児童たちは大喜び 校舎も屋根はアルミ合金とい工法をとり入れている

広く明るい教室、暖房はクリーンヒーターを使用、照明や防災、校内放送など最新の技術を集めている

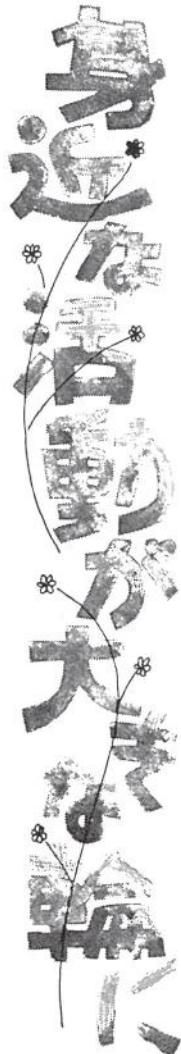


ホールや廊下には全館木製のフローリングブロックを敷きつめてあり、郡内でも珍しい床面に





婦人活動一年のあゆみから



一家の健康をあずかる主婦の役割は大きい（第1回健康まつりで）

くらしに 根ざした活動を

まず、小さなことからでいい
自分の足もとから実践に移そう
と話し合いました。

家庭の健康をあずかる私達主婦は、一日も頭から保健や栄養料理などの知識と技能を離すわ

婦人活動は大きく分けて「地域を住みよくする」ボランティア活動と、「婦人自身の研修をする」という二つの目的があると思います。そこで、この一年婦人の意識調査をふまえて、いま述べた二つの目的達成のために、どうようなあゆみをしてきたのかをふり返ってみたいと思います。

ボランティア活動については、必要に応じて永い歴史の中で活動を続けて来ているので、ここでは後でのべた「婦人自身の研修をする」という、目的達成のためにどのようにとりくんできたかを述べたいと思います。

昨年までは、婦人学級は冬季に限つて開いてきましたが、婦人が學習しようとするのに、冬季に限ることは「どうだろう」との話題から「年間を通して学習する婦人になろう」と年間の自己研修の計画を立案することになりました。

昨年三月この紙上で婦人の意識調査（町全地区選出婦人五八二名対象、回収率94.5%）の結果から、婦人活動を見直そうとの提示がありました。今月は、この調査をふまえての一年間のあゆみを中心に、婦人活動のあり方をみんなで考えてみたいと思います。

けにはいきません。調査の結果にも現われているように、この事に関して五〇%余の学習希望者があつたことですし、早速年間五回の「健康教室」を開催することに決定しました。

健康教室のあゆみ

（中部婦人会）

第一回

7月13日 バランスのとれた食事

二回

9月6日 農繁期を元気で過す食生活

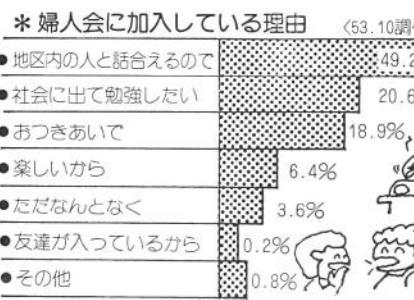
三回

11月29日 成人病予防

四回

12月13日 食事の中の

五回 塩分
2月26日 レクリエーション運動（花笠、朝



日音頭、トリム体操)

第三回までの講師は寒河江農業改良普及所より出張していた

だき、第四回は寒河江保健所と町保健婦の方を講師に、盛況の

中に開催することができまし

た。食品の知識、栄養のバラン

スのとれた料理実習、疲労度の測定、いろいろな濃度の味噌汁

の検査などを学習して、塩分の

とりすぎが如何に知らず知らず

のうちに命を縮めているかわから

りました。「しようばいものが好きだから」といつての食事を

続けていてはいけない、もっと塩分の量を考えた調理法の工夫

が大切であることを反省させられました。第五回のレクリエーション運動は町職員を講

師に、体を動かした健康

の大切さを学びました。

健康教室は、家族全員

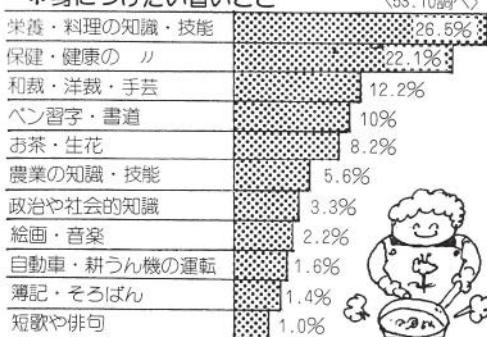
が健やかに生活するための学習で、健康は毎日の

生活の中でつくられていくものであることを、今更のように反省させられました。

つぎに婦人自身が身につけていた習いごとはと問いかけてみますと、調査

では「和裁・洋裁・お茶・お花・ベン習字」が三〇・四%の率を示していますが、いざ具体的に自分が

*身につけたい習いごと



①生花②ベン習字③民謡
(中部婦人会・支部婦人会)



第一回 7月28日 池坊の歴史

生花の飾り方床の実習

8月9日 伝書の技法と実習

9月13日 生花の基本

10月18日 自由花の素材と表現、平面と曲面

11月15日 自由花の点について実習

12月27日 正月花(松)

竹梅の活け方実習

1月11日 生花の実技を中心

8回 2月7日 生花の実技と反省

7回 1月11日 生花の実技を中心

6回 12月27日 正月花(松)

竹梅の活け方実習

5回 1月11日 生花の実技を中心

4回 12月27日 正月花(松)

竹梅の活け方実習

3回 1月11日 生花の実技を中心

2回 1月11日 生花の実技を中心

1回 1月11日 生花の実技を中心

あゆみ (支部婦人会)

第一回 7月13日 楷書の練習

。腕全体で書くこと

でき上った作品は、役枝の一一番基本といわれる「真」の枝がいずれも見事にきまっているのはびっくりしました。

学習することの大切さ、やればできるという楽しさを味わいました。

第一回 8月28日 お立ち酒、山形・宮城県民謡

10月16日 お立ち酒、紅花つみ唄山形県民謡

12月1日 紅花つみ唄お立ち酒

第一回 7月13日 楷書の練習

。腕全体で書くこと

あゆみ (支部婦人会)

第一回 8月28日 お立ち酒、山形・宮城県民謡

10月16日 お立ち酒、紅花つみ唄山形県民謡

12月1日 紅花つみ唄お立ち酒

第一回 7月13日 楷書の練習

。腕全体で書くこと

△：編集・教育広報委員会

町民の ひろば



ご意見・話題をどしお寄せ下さい。
—広報係—

吹雪なんか何のその

元気いっぱい！町民スキー大会

オープン二年目を迎えた白倉スキー場で、さる二月十七日町民スキー大会が開かれました。

この日は時おり吹雪が舞う天候のなか、小学生から一般まで百名をこす選手が出場。回転から滑降、長ぐつスキーなど、十種目に挑みました。

とくにこことは、例年にない豪雪とあってグレンデの状況も良く、それぞれ競いあい、一般男子回転では夏草の佐竹恵一選手が、滑降では前田沢の長岡秀昭選手が優勝をかぎりました。

成績はつぎのとおり。

- 回転(アル・ベンスキー)
 - ▽小学校高学年／男子▽
 - ①岡崎秀一／女子▽①
 - 阿部秀代
- △混合ダブルス
- 優勝 熊谷由起子・安藤好
- 三位 今井由紀子・阿部美喜子
- △男子ダブルス
- 優勝 熊谷由起子・安藤好
- 三位 今井由紀子・阿部美喜子
- 川功次／女子▽①遠藤智
- 二位 五十嵐澄雄・白田武



△長ぐつスキー▽小学校低学年▽男子▽①阿部清信▽②森政利▽③土屋亮悦▽女子▽①渡辺ゆかり▽②松田三奈▽小学校高学年▽男子▽①阿部広幸▽②志藤貞一▽③清野光広▽女子▽①松田千鶴▽②森ひろみ▽③阿部浩美

△中学男子▽①熊谷隆浩▽②斎藤誠▽高校・一般男子▽①長岡秀昭▽②佐竹恵一▽③斎藤頼靖

△中学男子▽①熊谷隆浩▽②斎藤誠▽高校・一般男子▽①佐竹恵一▽②斎藤頼靖、長岡秀昭

△滑降▽中学男子▽①佐竹恵一▽②谷隆浩▽③長岡賢一

△高校・一般男子▽①長岡秀昭▽②佐竹恵一▽③斎藤頼靖

西村山地区バド大会成績

第一回西村山地区バドミントン大会が、さる二月二十四日寒河江市の陵南中体育館で開かれました。

西村山バド連絡協議会の主催で、技術の向上と親睦をめざすこの大会には約百名が出場。

(町内からは十九名) 成績はつ

くのです。

ところでヒカカクキョウソウ時代。漢字で書けば「非価格競争時代」で「なんだ」ということですが、言葉の意味は解けても経営の戦略として理解することは仲々難かしいことです。

八〇年代の経営にとってさて通れない競争、それはこの「非価格競争」ということです。それは、「物（商製品、作物生産物）のどこ品質がよくてどこの悪い、などの品質で争う時代ではなくなってしまった、ということがその第一の現状分析です。例えばわが町の名品日本一の

△女子ダブルス

△阿部宗一郎記▽

こういうと大抵のかたはキヨトンとされますが、耳なれない言葉なので一瞬理解ができないものも当然です。

社会の経営の立場からすれば市場の様相は刻々

変化し、対応することが遅ればたちまちとり残されま

す。経営とはまことにきびしいもので、そこに新しい経営戦略の言葉もうまれて

れば「好み」で選ぶ時代ともな

ればよいのでしょうか。

それがヒカカク競争なことで、お客様は今までサービス

で、お客様は価格でもなく

同時に価格についても同じ

時代だということでしょう。

それでは何で私達は競争

すればよいのでしょうか。

それがヒカカク競争なことで、お客様は今までサービス

で、それがサービス

思いますが、それはサービ

ス競争の時代ということも

あります。もうおわかりのことと

で、お客様は今までサービ

スと言えば「安く売る」と

だと考えてきましたが、ほん

とうのサービスとは「価格」

のない「価格」のつかないも

のにあるのです。市場のお客

様の相手の立場に立って「心

を「物」にプラスすることが

できるかどうか。その競争に

勝てるかどうか、ということ

がでしょう。

朝日分校

六一名が新たな巣立ち

定时制の閉課式も



早春のやわらかい日さしがふりそぞぐ三月三日、県立左沢高等学校朝日分校（細矢謙悦校長 生徒数三七〇名）の卒業式が厳しく行われました。

今年度の卒業生は、全日制が男子六四名、女子六〇名の一二四名、定時制が農業科一二名、生活科二六名の計一六二名の若鮎たち。とくに定時制については、昭和二十三年六月県立高松高校宮宿分校として設立いらい三十一年間の歴史を閉じる、記念すべき最後の卒業式となりました。

「初めて実がなった嬉しさは最高!!」

古
楨
清野みつぎさん
(24歳)

の”との評判だ。

て聞いていたけど

千葉県勝浦の海辺から、はるばるりんごの里へ嫁に来た浜っ子。実家はむかし漁家だったというから、縁とは本当に不思議なもの。

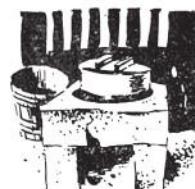
氣さくな働きも



卷之三

式では、校歌斎唱のあと細野校長が卒業生の代表に卒業証書を授与。「この卒業を人生の大きな節として、竹のように伸び伸びとそれぞれの人生を歩んで下さい」と励ましのことばをちくりました。さらには賀詞を代表して柴田三郎君が、「朝日分校で学んだ誇りを胸に無限の可能性に向って力強くすんでいきます」。あいさつ。在校生の拍手のなか、恩師や級友たちとの別れを惜んでいました。なお卒業生の進路状況は、進学三八名、就職二四名で、職種別では製造業四名、小売業二名、サービス業一九名、公務員八名となつており町内に一五名、県内六七名その他県外となつています。

美しい親切



中三になる家の娘たち同級生四人がスクールバスに乗り遅れた二月九日のことです。定期バスはすぐ来るので、『バス代がないね』と困りきつていると、そんな話を聞いていたのか、宮宿行きのバスを待っていた方が、

地区だ。何にでも積極的に参
加している。

△松程
鈴木▽

昨年一家の柱を失って、農業一年生同士で夢中でりんごづくりにとりくんできた。「春の摘花から防除、袋かけとずっと手をかけてきたから秋に赤い実がなったときはすっかり感激して。とにかく新鮮でおいしくって、仕事のいい間に食べてばかりいましだた。」と笑う。「農作業はつらいけど、二人でやれるから……とも。

地区だ。何にでも積極的に参加している。

「友達がいっぱいできました。最初はことばがわからなくて困ったけど、今では私も大分ナマつてしまつて：」とことし一歳になる弥生ちゃんを抱きしめる。

趣味は前から仕事でやつていた洋裁。「村のこと、りんごづくりなどもとみんなど交流して学びたい」と息をはずませるさわやかさんだ。

